



かたひがし

昭和47年10月9日
第122号
発行 新潟県西蒲原郡湯東村
印刷 北洋印刷株式会社

<村の人口>

総人口	6,525人
男	3,182人
女	3,343人
世帯数	1,198

47年8月31日現在

昭和四十六年度 一般会計 決算の認定

昭和四十六年度湯東村一般会計歳入歳出決算、国民健康保険特別会計歳入歳出決算は、九月定例村議会にて認定されました。

決算の概要について、「提案説明」によって御案内します。

昭和四十六年度は、湯東村長期総合開発計画の策定を完了し、第一年度として事業を進めてまいりました。

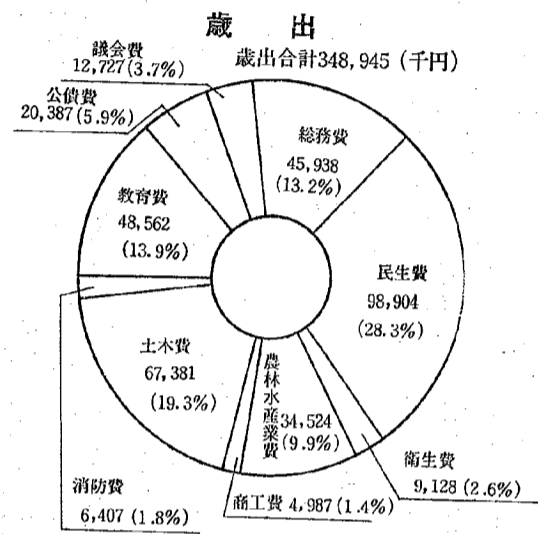
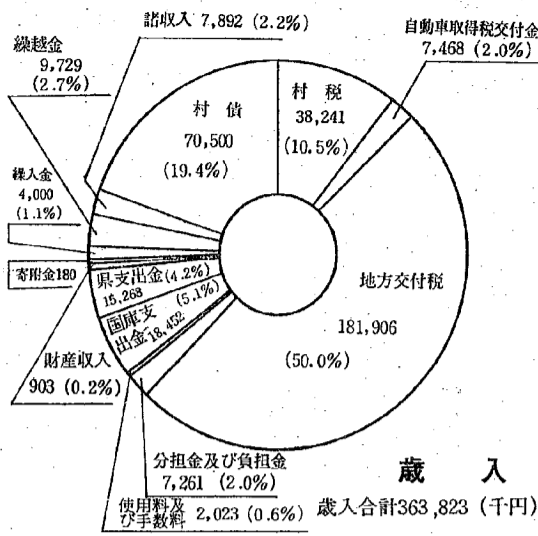
まず健全財政を基調として、かつ村民の減税を実施しながら、経済活動の拡大変化、流通機構の改善、就業機会の増大を計る。いわゆる産業と生活基盤の根元であり、社会資本の充実を意をもち、道路の改良舗装工事の促進を始め、学校教育、社会教育施設の整備拡充、農業の振興、環境衛生、社会福祉事業の推進の四点を重点項目として、当初予算は骨格的な予算編成方針で取り組みました。総額二億二千四百八十四万四千八百二十九円となりまして、前年度の歳入総額に比し、二七・五%の増となり、歳入歳出差引額一千四百八十七万八千七百七十七円

七百八十六万一千円の前算を修正し、最終予算総額三億六千三十四万五千円と、かつてない大型予算となりました。

歳入総額は、三億六千三百八十二万三千六百、これは昨年度に比し二八・三%の伸びとなりました。

歳出総額は、三億四千八百九十四万四千八百二十九円となりまして、前年度の歳出総額に比し、二七・五%の増となりました。

歳入歳出差引額一千四百八十七万八千七百七十七円



人事異動

十月一日付

税務課長	掛野 勇	税務課	斎藤百合子
民生課長	小林重成	民生課	福島 允
住民課長	井上龜久男	住民課	福島 允
議事事務局	渡辺 務	議事事務局	藤田 功
収入役室	山保芳夫	収入役室	藤田 功
総務課	幡本洋子	総務課	藤田 功
税務課	三富四郎	税務課	佐藤孝志

性質別決算

科 目	決 算 額	比 率 %
1. 人 物 費	70,263	20.14
2. 維持補修費	30,965	8.87
3. 扶助費	7,878	2.26
4. 補助費	27,263	7.81
5. 普通建設事業費	25,961	7.44
6. 借入金返済金	146,832	42.07
7. 借入金返済金	20,375	5.84
8. 公債費	50	0.02
9. 貸付金	4,258	1.22
10. 繰出金	15,100	4.33
合 計	348,945	100.00

長期総合開発計画 (基本構想) (5)

住民生活の安定向上および人間形成

(1) 住民生活の安定向上

経済成長は所得の向上をもたらすが、これと相まって、より高い福祉社会を建設すべく努力しなければならぬ。そのためには人間尊重を基本とし、生活の安全保持を確立し、住民もまた社会的責任を自覚して、これらの施策に積極的な参加を求め推進されるべきである。

ア 社会福祉

イ 老人福祉

老人福祉対策は年々向上しているが、特に核家族時代と言われる世相を反映して、老人の単独世帯が増え、不安が懸念される。これに貧困・疾病等が拍車をかけているので、高令者の医療費の半額給付等、国庫の施策とあわせて更に一層の保障施策を推進する。そして老人が社会の一員として生きがいを自覚するよう、職業安定所の高令者の職業あっせん等を利用して、仕事を与えることに努力する。

また、老人クラブの育成に努めるとともに老人憩いの場として、村内二つ交通安全協会の統合を推進して、交通安全の確保を図る。

防火対策の確立

住民の生命財産を災害から保護し、住民生活の安寧、社会秩序の維持を図るためには、防火対策に万全を期さなければならない。防火対策は、湯東村地域防災計画に基づき実施し、特に火災対策については近隣町村と応援協定を締結して体制を確立しているものの、最近では建築物の構造、熱源の進化に伴い、多種多様な火災が各地に発生し、大きな問題を呈しており、また社会的経済的要因により出動可能な消防団員の減少ももたらされ、加えて交通事故等による人身事故が頻発の度を増していることから、より高度な防火体制が必須となり今後の防火体制については、広域消防防災体制の確立を、機械化による常備消防設備と救急体制を推進するとともに、現在の消防団組織を整備充実させ、防火体制の万全を図る。

(註) 昭和四十七年四月一日巻・湯東消防事務組合が発足し、八月一日から湯東消防分署(役場前)が業務を開始した。

交通安全対策の確立

近年自動車の激増と道路の改良舗装によりスピード化され、交通事故が多発している現状である。運転者・歩行者の正しい交通マナーの励行等交通安全思想の普及徹底を図りつつ、安全施設の設置を必要とする。

☆ 樋口記念美術館のご案内 (6)

去る七月末、装いも新たにオープンした樋口記念美術館は、今までの美術品に更に樋口顕爾翁から贈られた絵画を中心に、多くの美術品を加えて、充実した美術館として好評を得ています。

休載していた展示品の紙上紹介を、続けます。

木彫

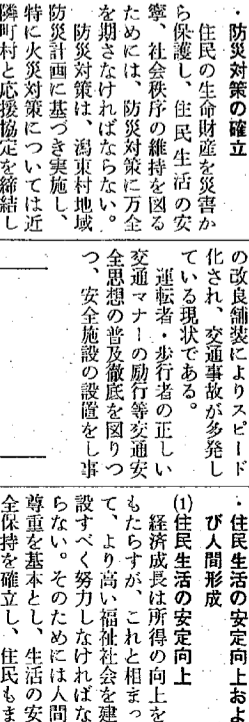
鷲(雄叫)

朝倉文夫 作

高くひと声、まさに大空へ舞いあがりんとする岩頭の鷲。

「雄叫」と名付けられた、作者快心の作とみられる。

高さ 五十五厘米



木彫 鷲(雄叫) 朝倉文夫 作

第二回文展に出品した「鷲」で注目され、初期文展で受賞を重ねた。その後帝京美術院会員、帝室技芸員となり、一九四八年(昭和二十三年)文化勲章を受けた。

連続した彫刻技術と忠実な観察による自然主義的な

あなたには車に気づいていても、車はあなたに気づいていない!!

